



ダイヤ ALCファイラー

可使時間無制限、乾燥時間も約4時間(標準温度)。作業性に優れ、工期を短くするシーラーレスファイラーです。

特長

- 下地の目つぶし効果と吸い込み止め効果があります。
- シーラーレスタイプで清水を加え攪拌した後、すぐ使用可能です。
- 降雨後にありがちな白華(エフロエッセンス)の発生がありません。
- リシン面、アクリルタイル面等の改修にもご使用いただけます。

包装単位

ダイヤALCファイラー.....20kg缶

適用仕上材

- ダイヤALCファイラーを施工後、可能な仕上材
 - ・外装薄塗材E・Si(アクリルリシン、SPリシン)等
 - ・複層塗材E・Si・RE(アクリルタイル、SPタイル、エボンE一液型)等
- ダイヤALCファイラーを施工後、ワイドシーラー処理を行い、施工可能な仕上材
 - ・防水形複層塗材E(カイクウォールRG,SG)等
 - ・単層弾性塗材(ニューデポール)等

※使用不可仕上材
外装薄塗材C・S、複層塗材CE・RS、厚付仕上塗材C

工程	材料	希釈割合	所要量	塗回数	乾燥時間	
					工程内	工程間
1	下地調整		下地に付着している土砂、ほこり、油脂類およびレイタンス、エフロは完全に除去し、含水率10%以下(pH10以下)に管理してください。豆板、欠け、不陸、目違いなどは、ダイヤファイラー、ダイヤセメントファイラー、またはセメンジャス#2000等で平滑に補修してください。			
2	ダイヤALCファイラー 清水	20kg 1.2~2.0リットル	0.7~0.9kg/m ² 22~28m ² /缶	1	-	4時間以上
3	仕上	仕上材の施工				

■施工・管理上の注意

1. セメント質下地は、表面の含水率が10%以下(pH10以下)になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
2. 材料が付着乾燥しますと取れませんが、塗布面周辺の養生を完全に行い、施工時建物の周辺に飛散しないようにして下さい。養生テープは塗膜厚を考慮して、強度の高いものを使用して下さい。また、吹付け後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃してください。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残ります。
3. コンプレッサーは必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
4. 下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
5. 気温5℃以下、湿度85%以上または降雨、降雪、強風の場合は施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨(雪)養生をして下さい。なお、夜間の気温が氷点下になる恐れがある場合は、午後3時頃までに作業を打ち切るようにして下さい。
6. 施工後24時間以内に降雨、結露等水の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
7. 本施工に入る前に試験塗りを行い、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。
8. 希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らないことがあります。常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
9. 材料の保管は気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
10. シーリング材の上に施工する場合は、シーリング材の種類、材質によって汚染、亀裂、剥離など不具合が発生する場合があります。

■安全衛生上の注意

1. 取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
2. 取扱い後は、手洗い及びうがい等を充分に行ってください。
3. 子供の手の届かない所に保管して下さい。
4. 作業中・作業後は充分換気を行ってください。
5. 廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
6. 目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
7. 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
8. 中身を使い切ってから廃棄して下さい。
9. 廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
10. 皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
11. 臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認下さい。
施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート(SDS)をご確認下さい。

